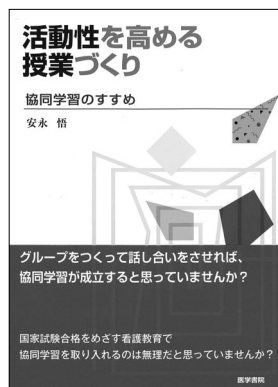


『活動性を高める授業づくり
協同学習のすすめ』学び合う学生の姿に感動を
味わいたい方は試みて

著：安永 悟／定価：2,520 円(本体 2,400 円＋税 5%)
発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



私が教育学の本を初めて開いたときに目に入った挿絵には、長いムチを持って教壇に立つ教師の恐ろしい姿があり、18世紀頃に至るまで子どもは「小さな大人」とであると認識され、ムチによる教育が当たり前だったとの文言に驚いたものだ。現在でも、子どもへの体罰は是か非かなどの議論が巻き起こるのだから、教育にかかわることは常に挑戦者であり続けることなのだと思う。看護教育者にとって、「こんな看護職になってほしい」との願いがあっても、ではどんな教育をすれば理想とする看護職が育つのか、まだ世界的なゴールデスタンダードは示されていない。

私自身は試行錯誤の授業方法を模索するなかで、この本に出会って幸せな気持ちになった。焦っていた自分に、もっと大切な「教育とは何か」を見つめ直す機会をくれたからだ。近年の教育においては、競争原理に基づいた競争パラダイムが重視され、教え込むことで理解や暗記を促すという方法が多用されてきた。しかし、本書で述べられている協同パラダイムでは、知識を得るためには他者との対話が重要であり、仲間や教師との積極的な対話を通して、学生の無限の可能性を引き出すような授業展開が教育者に求められている。

著者は、「教師は、自分自身の教育に対する考え方(教育観)をもっと自覚すべきです」、そして「自分の教育観は授業づくりに直接影響します」、

さらに「より望ましい授業実践を求めて日々研鑽することが教師の務めといえます」と容赦なくズシンと響く言葉を投げかける。「教育観は何だ」と突然問われたら、即答は難しいのだと言い訳したくなるし、看護観はしっかりもっているつもりだから許してほしいと言いたくなる。そんなとき著者は、「学生の成長を願って先生方が努力している姿は学生に伝わります」とホッとさせる言葉もかけてくれるのだ。

本書で学ぶと、グループ学習がそのまま協同パラダイムの実践ではなく、活動性の高い授業づくりに取り組む具体的な方法や考え方を理解してこそ、グループ活動が活かされることに気づかされる。第1章では学生の参加を促す、第3章では授業づくりのポイントをつかむ、さらに第5章では看護技術を協同で学ぶ、のように最後の7章まで知りたいことが満載である。しかも、著者の声が聞こえてきそうなほど心地よい話し言葉で書かれている。

学生が学ぶことの意味を見出すことで、学びが自分の成長の糧になり、人生を豊かにするとわかれば、学生は主体的にしかも貪欲に学び始めると著者は言う。だから、本書で協同学習の実践的な授業方法を学び、実際の授業で試し、学び合う学生の姿に感動を味わいたい方は試みてほしいのだ。私も、ぜひ感動したいと思う。